

日本共産党 市会議員団 ニュース

発行
日本共産党
川西市議員団

市役所控室
Tel 740-1111
内線 4020
議員団直通
FAX 759-1811

市議員団
住田由之輔
Tel・fax 759-4541
黒田 みち
Tel・fax 790-3055
北野のり子
Tel・fax 793-9515
森本たけし
Tel・fax 757-2127

12月定例会が、11月29日から12月21日まで開催されました。

黒田みち議員・北野のり子議員・森本たけし議員が、一般質問を行いました(住田由之輔議員は副議長のため、今回は、一般質問を差し控えました)。

黒田みち議員の一般質問



国は、2008年(平成20年)改定の「学校給食法」で、義務教育諸学校の設置者に「(中学校給食が)実施されるよう努めなければならぬ」と求めています。

中学校給食など

こどもの環境整備を!

こどもの心と体を守り育てる食育や、社会教育の観点から重視されている「中学校給食」。市は「耐震化が終わってから検討する」という姿勢ですが、中学校給食は、4年前の大塩市長の公約でもあり、最優先課題として実施すべきであり、他市と比べて遅れている中学校の建設なども含め、こどもの教育環境の整備を強く求めました。



住宅リフォーム助成

地域経済活性化へ!

住民が住宅リフォームをする際、自治体が一定額を補助する「住宅リフォーム助成制度」。全国で175の自治体の実施。住民に喜ばれているほか、新しい雇用の創出と中小企業や、一人親方の業者の育成など、大きな仕事興し効果

を生んでいます。

実施自治体での経済効果は5〜10倍といわれ、自治体独自の工夫で補助内容の拡大も行われています。「地域でお金が動けば、納税効果も期待でき、元気な街づくりの基本」と、制度創設を提案しました。

バリアフリー実施

できる所から!

できる事が!

ホームまでの長い階段を上り下りできないため、買い物にも病院にも行けないという切実な悩みを抱える一の鳥居駅周辺の住民。能勢電鉄には他にもバリアフリーが進んでいない駅があり、乗降困難駅への対策が心待ちされています。

国に対し、バリアフリー化促進の計画や補助を求めるとともに、電鉄会社と連携し、「できる所から、できる事から」対応を求めました。



川西病院の存続・拡充

バスの本格運行を!

川西市として「川西病院を自治体病院として堅持する」ことを明確にし、猪名川町などとの連携で地域医療の拠点としての役割を果たすこと、日生中央駅からの病院行きバス(12月末で試験運行)の本格運行を求めました。

「自治体病院として存続するため、池田市民病院との連携を考えている」と答弁がありました。

市長公約実現を!

就学前までの、

こどもの医療費無料化

川西市として今年7月から、就学前の子どもまで入院・通院共に無料化がスタートします。

子宮頸がん予防ワクチン、

肺炎球菌ワクチン接種

2月からこどもの細菌性髄膜炎の予防接種であるヒブワクチンと、肺炎球菌ワクチン、子宮頸がん予防ワクチンの3ワクチンへの補助(所得制限なし・費用負担なし)が始まります(1月遡及適用)。

北野のり子議員の一般質問



ごみ収集後の片づけ 収集作業の二環と一つ

家族の介護や共働き、妊娠、高齢等、さまざまな事情で収集後、すぐに片づけることが出来ず、ネットやシートが広がったまま放置されているステーションや、カラスに荒らされ、ごみが散乱しているステーション。収集後のネットやシート、周辺散乱ごみを片づける行為を収集作業の一環として、仕事に組み入れるよう求めました。

「収集作業員にネットやシートは隅に置くこと、散乱ごみも片づけるよう指導している」と答弁がありました。しかし、努力義務となっており、作業員によって意識の差があります。これからステーションをチェックし、引き続き市に申し入れを行います。

高齢者おでかけ

促進事業の拡充

買い物弱者解消を!

年齢を重ねるとともに医療費が増えるなど、高齢者の暮らしが圧迫され、大きな不安が広がっています。こうした状況の中で、「助成額を増やしてほしい。元の6千円（現在、年間3千円）に戻してほしい」という声が寄せられています。また、年齢とともに足腰が弱る等の身体的な問題や、買い物への距離、坂や階段が強い問題等の、さまざまな原因が日常の買い物（おでかけ）に支障をきたしています。

買い物支援策の一助として介護保険とは別に、買い物代行、移動販売、福祉バスなど支援策を検討するよう求めました。

市からは「高齢化とともに負担が増え、財政的に厳しい。また買い物支援については、スーパーの配達サービスの利用やシルバー人材センターを活用することもできる」という答弁がありました。

川西の高齢化は23%。当局が当事者意識を持って、「買い物弱者」の解消に向けた環境整備を進めていくことが、求められています。



公契約法・条例の制定

官製ワーキングプア

解消へ!

公契約法・条例の制定を求める背景に、「官製ワーキングプア」と呼ばれる深刻な事態の広がりがあります。公務員職場で働く労働者も、公共サービスを受注した企業で働く労働者も低賃金に苦しみ、住民の税金を使った事業が、「働く貧困層」を大量に生み出すという事態が生じています。

「官製ワーキングプア」が社会問題になる中、公契約法・条例を求める運動が進んでいます。川西市でも条例の実施に向け取り組みよう求め、また、川西市において「官製ワーキングプア」が生まれているかどうか質しました。

市からは「ワーキングプアと呼ばれる人はいない。関係法令順守について周知している」と答弁がありました。

しかし、川西市でも、非正規労働者が正規労働者に置き

森本たけし議員の一般質問



換えられ仕事をこなしていません。雇用形態の違いだけで、仕事の内容は全く同じという職場も少なくありません。賃金も一般事務補助で働く臨時職員は、阪神間で一番低い時給となっています。いくら最低賃金以上を確保しているといっても、暮らしていける賃金ではありません。

これからも市民サービスの質の向上につながる条例制定に向け、取り組むよう声をあげていきます。

スポーツで地域振興 利用しやすい公共施設へ!

スポーツや運動を通じて、川西市を元気にしたい、活気づけたいの思いから、一庫ダムマラソンの他に、川西市の目玉となるようなスポーツイベントの開催を提案。また、総合体育館や、市立体育館、市民プールの運動プログラムの利用料金が、民間のスポーツクラブと比較しても大差ないことを指摘し、市民が利用しやすい料金体系とするよう求めました。

市からは「今後市民のアイデアを取り入れながら、幅広い世代の市民が、手軽に参加できるようなスポーツイベントの開催を検討していきたい」。また「公共施設の利用料金は、民間と比べて低廉な価格であるべきと考える。検討させて頂く」との答弁がありました。



市立川西病院への

アクセス手段確保

交通弱者救済へ!

現在の立地上、市民病院に行くのに不便を感じておられる方、行きたくても行けないという方が、少なからずおられます。その一方で、患者さんが少なくて困っている市民病院。交通手段という障壁で、両者のニーズが満たされない状態を、一刻も早く改善しなければなりません。

08年〜09年の間に行われた、市立川西病院循環バスの試験運行結果を総括した上、今後、どのような交通網を確立していくのか質しました。

市からは「川西市における、持続可能な交通施策について、検討を進めていく。他市の先進的な事例を实地調査、検分し、現状を改善する施策を早急にとりたい」との答弁がありました。

